

5. 今月のトピックス 「イネばか苗病について」

本病はイネに発生する糸状菌病害です。近年、三重県内では本病が少発生ながら散見されており、多発すると2〜3割の減収になるとも言われています。今後の蔓延を防ぐために、本病の特徴を理解して防除対策をしましょう。

◆被害の様子◆

育苗期および本田期に発病し、本菌によって産生されたジベレリンの作用によって、葉身や葉鞘が徒長および黄化する特徴があります。

育苗期：健全苗に比べて、葉身や葉鞘ともに黄化、徒長します(図1)。特に移植直前の苗で顕著に現れます。

本田期：分けつ盛期までに葉鞘や節間が伸びて草丈が高くなり、全身が黄化します(図2)。発病株は穂ばらみ期頃には枯死しますが、葉鞘上には白色粉状の胞子が多量に付着しており、周囲への感染源になります(図3・矢印)。

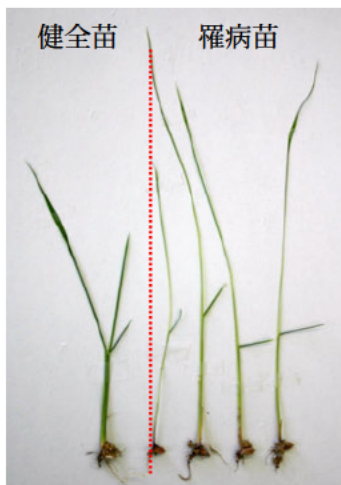


図1 罹病苗(移植1〜5日前)の症状



図2 本田での徒長症状



図3 枯死株の症状

◆伝染経路◆

本病は種子伝染性病害です。枯死した株に形成された胞子(図3)が出穂期に周囲へ飛散し、開花したもみへ感染します。感染種もみは翌年の育苗期に第一伝染源となり、浸種や催芽、育苗箱中で周囲へ感染が拡大します(図4)。

◆防除のポイント◆

- 健全種子を使用しましょう。ばか苗病発生ほ場から自家採種した種もみは発生源となります。特に温湯消毒は薬剤消毒に比べて重症の種もみに対する防除効果が低いため、必ず健全種子を用いて手順や留意事項を厳守しましょう。
- 塩水選で重症の種もみを除去し、浸種を小分けして感染拡大を防ぎましょう。
- 本田での薬剤防除はできません。発病苗は除去するとともに、多発した育苗箱の移植は避けましょう。万が一、本田で発病した場合は、枯死する前に株ごと抜き取って焼却するよう努めてください。

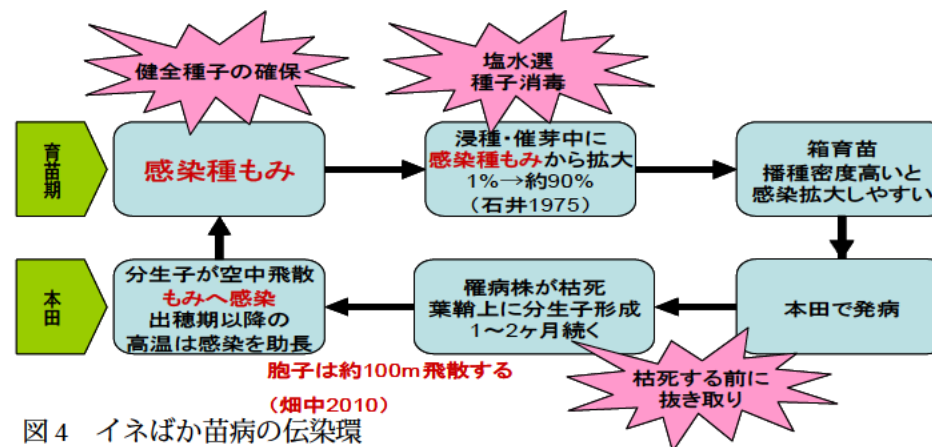


図4 イネばか苗病の伝染環